

2018

10-11 月

はしかけニューズレター

2018 年度 第 4 号 通巻 143 号

2018 年(平成 30 年)10 月 1 日 発行

編集・発行: 滋賀県立琵琶湖博物館 交流担当 (はしかけ担当職員: 下松・八尋・大塚・大槻・楊)

住所: 〒525-0001 滋賀県草津市下物町 1091 電話: 077-568-4811 ファックス: 077-568-4850

電子メール: hashi-adm@biwahaku.jp 琵琶湖博物館ホームページ: <http://www.biwahaku.jp>

(注意) 昨年末よりメール アドレス および HP アドレスが変更になっています。

～ 目 次 ～

1. オープンラボの活用と今後の予定

2. はしかけグループの活動報告と活動予定

- (1) うおの会 (2) 近江 巡礼の歴史勉強会 (3) 淡海スケッチの会
 (4) 近江はたおり探検隊 (5) 大津の岩石調査隊 (6) 温故写新
 (7) 暮らしをつづる会 (8) 古琵琶湖発掘調査隊 (9) 湖(こ)をつなぐ会 (10) ザ! ディスカバりはしかけ
 (11) 里山の会 (12) 植物観察の会 (13) たんさいぼうの会 (14) 田んぼの生き物調査グループ
 (15) タンポポ調査はしかけ (16) ちっちゃなこどもの自然あそび(ちこあそ) (17) 琵琶湖の小さな生き物を観察する会
 (18) びわたん (19) ほねほねくらぶ (20) 緑のくすり箱 (21) 虫架け (22) 森人 (23) 琵琶湖梁山泊
 (24) サロン de 湖流

3. 生活実験工房からのお知らせ

4. その他の事項

会員数 ... 387人

グループ数 24 グループ

(2018年10月1日現在)

1. オープンラボの活用と今後の予定

リニューアルオープンしたおとなのディスカバリー内、オープンラボにおいては、学芸員がフロアトークを行ったり、ラボ内での調査会等で来館者と交流したりと活用が図られています(写真参照)。また、はしかけグループの皆様においても、ミーティングや観察会、同定会等でオープンラボをご利用頂き、来館者と交流頂いています(本文、淡海スケッチの会さん、古琵琶湖発掘調査隊さん、田んぼの生き物調査グループさん等で紹介されていますので、参照下さい)。まだ活用されていないグループにおきましても、是非、ご利用を図って頂きたいと思います。

さて、はしかけは、去る9月23日のはしかけ登録講座において、新たに31名の方が新規登録されて合計387名となり、過去最高の登録人数を更新しています。今後の予定ですが、11月17日(土)、18日(日)に「びわ博フェス2018」を実施します。内容は例年通りのワークショップ、ポスター展示、動物ふれあい広場等ですが、今年のワークショップにおいてはリニューアルオープンしたおとなのディスカバリーや、樹冠トレイルも利用して実施の予定です。皆様、お誘い合わせの上、奮ってご参加下さい。

(下松 孝秀)



フロアトークを実施する金尾主任学芸員



オープンラボで応答する山川上席総括学芸員

2. はしかけグループの活動報告と活動予定



(1) うおの会

【活動報告日の活動会員数(のべ) 36 名】

グループ代表アドレス: hashi-uonokai@biwahaku.jp

グループ担当職員: 松田征也

【活動報告】

■ 7月29日(日) 12:00-16:00 場所: 琵琶湖博物館 生活実験工房 参加者 21 名

本当なら午前中に“エリ漁体験”を実施し、午後にエリで捕れた魚を使って料理を作るはずでしたが、台風にならぬままに守山漁協の船がすべて避難してしまい、漁が不可能になりました。食材が手に入らなくなるところでしたが、守山漁協の戸田さんのご厚意で、新鮮なワカサギとスジエビ、さらには高級なウロリの佃煮をたくさんいただきました。前日にその食材を引き取りに行った際に、今回は外来魚料理の取材に関西学院大学の学生さんが来るので外来魚も欲しかった旨を伝え、急きよ「それじゃ今からエリをあげに行こう」ということになり、70cmほどのカムルチーと大量のオオクチバスの稚魚が追加で手に入りました。さらに当日朝にアユ、オイカワ、ハスなどを捕り食材は揃いました(←注・高田さんの“個人調査”成果物!)。

当日午後から“いざ調理開始!”のはずでしたが、たくさんの湖魚を前に皆で固まってしまう、なかなか手が進みません。しかし湖魚ごとに調理方法が決まると、自然に各自分担が決まり、皆の手が動きはじめました。特に吉本(母)さんは天ぷら鍋に掛かりっきりで、熱い油を前にひたすら揚げ続けてくれました。さらに熊木君は果敢にもカムルチーの解体を申し出て、松田さんの指導も受けながら、みごとやり遂げてくれました。料理が出来上がりはじめると、出来た途端に皆の手が伸びてすぐに無くなるの繰り返しで、調理と食事の境目のない“作っては食べ”の時間が流れ続けました。ワカサギ、アユ、オイカワなどはから揚げに、ハスとニゴイは塩焼きに、スジエビは濱道さん作のエビ豆とかき揚げに、ワカサギとスジエビの一部は飴炊きになりました。最後に、中尾さん特製の“カムルチー版スリランカカレー”登場となるころでしたが、ご飯チームがまさかの炊飯失敗。何とか松田さん提供のバックライスで急場を凌ぎました。食材が多かったこともあってとてもたくさんの料理が出来上がり、すべてを食べることはできなかったのですが、残った料理は皆で分けて持ち帰りました。(報告 高田昌彦)

追記: 持ち帰ったエビ豆、翌日食べるととても美味しかった! (中尾博行)

■ 9月16日(日) 第137回定例調査 場所: 旧近江町周辺河川 参加者 15 名

猛暑の夏が過ぎ、稲穂が首を垂れた田んぼの中をSL北びわこ号が走るという長閑な風景もみられる中、15名の少数精鋭での調査となりました。

調査は4班に分かれ、それぞれ琵琶田川、土川、深町川下流部、深町川上流部を担当し調査を行いました。確認魚種は、スナヤツメ(アンモニーテス幼生)、アユ、ドジョウ、ナマズ、カワムツ、ヌマムツ、アブラハヤ、フナ、カマツカ、ビワヒガイ、ヨシノボリ類、ヌマチチブ、ウキゴリ、ドンコ、ウツセミカジカ、ブルーギルなど。他に目視でオオクチバスも確認されました。水路にアメリカザリガニが非常に多かった事が印象的でした。

今回は、地図に記載されている河川名の誤り(深町川→仙洞垣内川 通称モチゴメ川)や、おそらくは河川改修により出来た地図にない川があり、調査地図の更新やウェブ地図との照合が課題となりました。モチゴメ川という通称を教えて頂いた地元の方との交流など、うおの会らしい調査が出来ました。(報告 澤田知之)

【活動予定】

■ 10月21日(日) 第138回定例調査 宇曾川～愛知川間の小河川

■ 11月17日(日) びわ博フェスに出典予定(スタッフ募集!)

■ 11月18日(日) 第139回定例調査 中の井川

■ 年間活動予定はうおの会のウェブサイトに掲載されています。ご覧ください。

【活動報告】

■ 7月20日(金) 場所: 湖南市岩根 参加者: 2名

湖南市岩根不動寺を管理されている方に初めてコンタクトが取れ、今後の調査に期待が膨らむ。下記は2017年8月2日にFBページに投稿した内容

“岩根南谷の不動寺で大きな発見

「建武元年(1334年)3月7日卜部佐兵衛入道充乗造之」の刻銘がある不動明王が本尊の不動寺を再訪。甲賀准四国78番札所の石碑を確認。また、新たに建立された寺号が彫られた石碑にも札所番号が彫られています。本堂には掛額も掲げられています。准四国巡拝記念と書かれた木札には4名の岩根の旧家のお名前がありました。大正から昭和の初期に掲げられたと推測されますが、一人目のお名前の方は今も不動寺の管理をされているそうです。建武のころから岩根にお住まいかと思うと歴史の重みを深く感じました。また、当時に甲賀准四国の巡礼が定着し広がっていたことを実感しました。”



磨崖仏のある不動寺



新たに建てられた札所の石碑



御詠歌の書かれた掛額



甲賀准四国巡拝記念の木

■ 8月3日(金) 場所: 奈良県吉野郡天川村 参加者: 2名

江州飯道山行者講の大峰山登山に参加(総勢30名)

役小角を開祖とする修験道の聖地大峯山の奥駈修行を体験、日本で最古の西国巡礼は吉野から熊野へ至る大峯山奥駈修行の到達地である那智青岸渡寺からスタートする。巡礼は山伏による修行から始まっていることを実感した。



西の硯



山上ヶ岳



襷に押された巡礼の朱印



洞川龍泉寺での護摩供養

■ 8月18日（土）場所：甲賀市 参加者：2名

いわがみの歴史探訪（岩上自治振興会のミニミニ講座、聴講者5名）で甲賀准四国をテーマに歴史講座を実施。巡礼の歴史勉強会で調査した内容を発表。岩上地域内の札所を巡って石碑や弘法大師像を見学。地元で初めての講座が実現した。



浄土寺の弘法大師像



第86番札所の石碑（浄土寺）



和野長福寺にある甲賀市最古の石碑



巖峨千光寺の石碑

【活動予定】

- ・「甲賀准四国八十八ヵ所」に関連した調査活動として、一ヵ寺ごとの二次調査を行い、データ集積を行う。
- ・「甲賀准四国八十八ヵ所」関係者や巡礼に関する専門家との第二回目勉強会を開催に向けた準備を進める。
- ・11月11日に開催される岩上文化祭において巡礼の歴史勉強会のパネル展示を行う。

(福野憲二)

*この活動に興味のある方は、上記メールアドレスにてご連絡ください。



(3) 淡海スケッチの会

【活動報告日の活動会員数（のべ）7名】

グループ代表アドレス: hashi-sketch@biwahaku.jp

グループ担当職員: 篠原徹、榎永一宏

【活動報告】

■ 7月22日（日）場所：琵琶湖博物館 参加者：4名

リニューアル後のおとなのディスカバリーを榎永さんよりご案内いただく。
その後、スケッチを楽しんだり、館内の見学をして充実した時間を過ごしました。

■ 8月18日（土）場所：琵琶湖博物館 参加者：3名

猛暑のため8月もおとなのディスカバリー内でスケッチを行う。

※2018年9月23日（日）の活動につきましては、次回ご報告の予定です。

【活動予定】

■ 10月28日（日）

琵琶湖博物館にて琵琶博フェスのためのポスター作り。

■ 11月25日（日）

水ヶ浜（近江八幡）にてスケッチ、および吟行。

※集合場所と時間については後日連絡させていただきます。

※初めて参加される方は080-5709-8634（金山）までご連絡ください。



(4) 近江はたおり探検隊

【活動報告日の活動会員数（のべ）8名】

グループ代表アドレス: hashi-oumihataori@biwahaku.jp

グループ担当職員: 渡部圭一

【活動報告】

織姫の会

■ 7月28日（土）参加者：3名

今回の糸をかけるため、現在かかっている糸を織りました。あと少しですが、なかなか終わりません。

■ 9月15日（水）参加者：5名

本日は整経作業。午前中、ひと模様作ったところで間違いが判明。最初からやりなおしました。また、途中で紺色の糸がなくなったので、他の糸で代用。

【活動予定】

■ 織姫の会

9月15日（土）、10月10日（水）、27日（土）、11月17日（土）びわ博フェス、28日（水）、12月8日（土）びわたん

（辻川智代）



(5) 大津の岩石調査隊

【活動報告日の活動会員数(のべ) 28名】

グループ代表アドレス: hashi-ganseki@biwahaku.jp

グループ担当職員: 里口保文

【活動報告】

■ 8月22日(水) 10:00-16:00 中野顧問の薄片による岩石の勉強会 参加者: 11名

岩石の基本を知るべく、薄片作成を強化してきた。今回は薄片から具体的にどのようなことが分かるのかを、中野さんに貴重な保存薄片から選別して頂き、博物館の新設した大型の顕微鏡を用いて説明して頂いた。

素晴らしい保管薄片と大きく明瞭に見える拡大装置とプロの岩石研究者である中野さんと三上さんの本格的な討議に、我々、素人集団からの質問も存発し、議論は大いに進み、薄片の意義が分かり、薄片作成意欲が高まった。また、本場所ではオープンスペースにあるので隊員以外の参加者からも注目して頂いた。古い薄片から現在研究中の薄片の一例を示す。写真の撮影は梅澤です。写りの悪さをご容赦ください。

チャート 模様がない。By Nakano	現在研究中 石英はある、模様もある。何物? by Nakano	砂岩 砂粒が見事 by Nakao
特異な石灰岩系 by Umezawa	岩石は実に煌びやか 橄欖岩 by Nakano	

■ 9月15日(土) 10:00-14:00 薄片試作の岩石の準備 参加者: 10名

岩石のカット、一次研磨、貼り付けまで実施。薄片を試作したい岩が随分とややこしくなり、カット中で割れたりしやすい。里口さんには多くの手間を取らせた。いつも有難うございます。

■ 9月16日(日) 10:00-16:00 薄片試作 参加者: 7名

前日に用意した石の2次切断から2次研磨を実施した。随分と進む速度も速くなったが薄片の厚みむらの防止などもありなかなか完成しない。後日に再度、試作を進める。

【活動予定】

■ 10月13日(土) 博物館 自主勉強会

■ 11月11日(日) 鞍馬の野外調査

■ 11月17日(土) びわ博フェス参加



(6) 温故写新

【活動報告日の活動会員数(のべ) 名】

グループ代表アドレス: hashi-onkosyasin@biwahaku.jp

グループ担当職員: 金尾滋史

【活動報告】

■ 7月28日(土) 9:00~16:00 おでかけ撮影会 場所: 伊吹山 <中止>

伊吹山での植物などの撮影を楽しみにしておりましたが、台風12号の接近に伴い、中止となりました。担当学芸員の雨男ぶりがまたしても発揮されてしまいました。

■ 8月18日(土) 14:00~16:00 びわ博フェス展示作戦会議 場所: 博物館交流室

11月のびわ博フェスでの展示に向けて、テーマや展示の手法などについてメンバーで話し合いを行いました。今年のテーマである「ふと気付く、滋賀の自然」をもとに、メンバーの撮影した写真を迫力よく展示していこうということになりました。

【活動予定】

■ 9月30日(日) 博物館入口9:30 集合

博物館周辺の秋の風景や生き物を撮影します。すっかり秋のようすになったからすま半島をみんなで楽しみながら撮影しましょう!!



(7) くらしをつづる会

【活動報告日の活動会員数(のべ) 名】

グループ代表アドレス: hashi-kurashi@biwahaku.jp

グループ担当職員: 渡部圭一

【活動報告】 活動はありませんでした。

【活動予定】 未定です。



(8) 古琵琶湖発掘調査隊

【活動報告日の活動会員数(のべ) 39 名】

グループ代表アドレス: hashi-hakutsu@biwahaku.jp

グループ担当職員: 山川千代美

【活動報告】

■ 7月12日(木) 7月14日の活動にむけての準備 場所: 琵琶湖博物館 地学研究室 参加者: 2名

活動内容: 7月14日の活動にむけて、土の計量や、土サンプルの採取、土の水つけ、千枚通しやシャーレ、保存用シール容器などの道具の準備などを行いました。

■ 7月14日(土) 13:30~16:00 多賀の発掘現場の土から微小な化石を探す作業 場所: 琵琶湖博物館 実習室1

参加者: 9名 見学: 2名

活動内容: 土を採取した層準や微小な化石を探す意義についての説明の後、各自、土の小割り作業を開始しました。また、見学に来てくださった方が採集した化石を持ってきておられたので、実際に手で持って見せていただくことができました。

小割り作業で採取した微小な化石を、おとなのディスカバリーに持っていき、顕微鏡のモニターに大きく画像を映して、皆で何の化石なのか考えました。

今回は、微小な植物化石を数点、採取することができました。

■ 8月11日（土）13:30～16:00 化石の探し方・楽しみ方についての勉強会 場所：琵琶湖博物館 実習室1

参加者：12名

活動内容：『湖国もぐらの会』の飯村 強先生に講師をお願いし、化石の探し方や楽しみ方について講義をしていただきました。スライドや、多くの貴重な実物化石標本なども見せていただき、わずかな手掛かりから化石を探すコツや、屋外での化石採集時の注意点や化石採集の際の心得などについて教えていただきました。

臨場感あふれる、豊富な化石発掘体験に基づく多彩なお話も聞かせていただき、とても楽しい勉強会になりました。



〔楽しいお話を交えながらの講義〕



〔実物化石標本を見ながら解説を聴きました〕

■ 9月16日（日）13:30～16:00 地層や堆積環境についての勉強会 場所：琵琶湖博物館 実習室2 参加者：16名

活動内容：琵琶湖博物館の学芸員の里口保文さんに講師をお願いし、里口さんの著書『琵琶湖はいつできた—地層が伝える過去の環境—』の内容に沿って講演をしていただきました。最新の研究内容に基づき、琵琶湖の生い立ちや、琵琶湖が存在し続けている理由、地層についての基礎的な解説など、スケールの大きな視点から、さまざまなお話をさせていただきました。

『大津の岩石調査隊』の方々も勉強会に参加してくださり、メンバー達からも休憩時間や講義終了後も多くの質問が出るなど、とても良い勉強会になりました。



〔集中して講義を聴きました〕

【活動予定】

- 11月のびわ博フェスでポスター展示を行うにあたり、その準備をします。
- 10月の活動については、現在検討中です。



(9) 湖(こ)をつなぐ会

【活動報告日の活動会員数(のべ) 5名】

グループ代表アドレス: hashi-ko-tunagu@biwahaku.jp

グループ担当職員: 林竜馬

【活動報告】

■ 8月25日土曜日は、親子連れの団体さんでとても賑わっていました。おかげで、がんばって呼び込みをしなくても、たくさん子ども達が集まってくれました。今回は、企画展示「化石林」を、紙芝居「びわこの旅」を利用して子ども達にも紹介をしました。この団体の方々、全国から集まっているらしく、紙芝居も熱心に見てくれましたし、「生きている琵琶湖」の歌も楽しそうに聞いてくれました。初めて見る「びわこ」を少しでも心に残してくれていたら嬉しく思います。あわせて、「カヤネズミのおかあさん」も上演し、C展示室の紹介もしました。

【活動予定】

- 10月13日(土) 13:00～ 実習室1集合 紙芝居上演
- 11月18日(日) びわ博フェス 予定 12:00 会議室集合



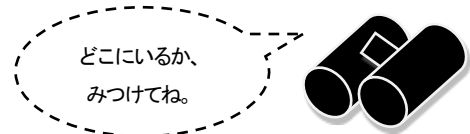
(10) ザ! ディスカバはしかけ

【活動報告日の活動会員数(のべ) 3名】

グループ代表アドレス: hashi-discov@biwahaku.jp

グループ担当職員: 中村久美子、妹尾裕介

ディスカバリールームがリニューアルオープンして、大賑わいの夏休みが終わりました。色んな生き物がかくれているので、ぜひ見つけに来てね。



【活動報告】

次回イベントの打合せ (ML にて)

タネ飛ばしは延期になりました。

～メンバーからのメッセージ～Vol. 45

ディスカバはしかけの活動は夏休みの間お休みしていましたが、新しくなったディスカバリールームには、たくさんのお客さんが来てくれて、展示室は入室制限がかかるほど大賑わいでした。秋のイベントに向けて、じっくり準備したいと思います。

中村

【今後の活動予定】

活動内容	実施日	タイトル	内容
準備	10—11月未定	びわ博フェスの準備	びわ博フェスの準備をします。

ディスカバリールームで「こんな楽しいことしたい！」などアイデア・提案があれば、お気軽に中村またはディスカバスタッフまで声をかけてください。いつでもお待ちしております！

新しいメンバーも大募集中です。一緒に楽しい発見(ディスカバ)しましょう！



(11) 里山の会

【活動報告日の活動会員数 35 名】

グループ代表アドレス: hashi-satoyama @biwahaku.jp (登録会員数: 36 名) グループ担当職員: 山本綾美

【活動報告】

■ 8月19日(金) ハンモック虫干し作業・そうめん流し 参加者: 12名



今年の夏は、大変暑い夏でした。活動連絡がうまく行っておらず、連絡漏れがあったことが分かったのですが、それでもこのニューズレターを見て参加してきてくださった会員もいて、12名の参加となりました。

この日も暑い日でしたが、活動の目的の半分は「ハンモックの虫干し」でしたので、快晴大歓迎!! 流し

そうめんの竹を準備する人と、食事を準備する人、ハンモックを干す人に分かれて作業しました。皆さん手際よく、素敵な流し竹も美味しそうな天ぷらもチャチャッと仕上げて、すごい! 素敵～。

里山の会では、毎回美味しいものを食べる事が活動の喜びを存分に楽しむ、その楽しみ方を皆さんでいろいろ掘ります。

たっぷりのそうめんと特製味噌だれ、超美味天ぷら、ルーツのプディング。うーんおなか一杯(^ ^) 本日もありがとうございました。



楽しみでもあります。里の恵り下げていけたらいいと思います。

漬物、煮物に、スイカに、フ
皆さんとの素敵な時間をあり

【活動予定】

- 9月23日(日) 他の里山訪問
- 10月6日(土) 里山体験教室下見
- 10月14日(日) 里山体験教室本番



(12) 植物観察の会

【活動報告日の活動会員数(のべ) 18名】

グループ代表アドレス: hashi-shoku-kan@biwahaku.jp

グループ担当職員: 芦谷美奈子

記録的猛暑だった夏もようやく終わりを告げ、センニンソウの白い花が咲き、ススキの穂も出始めました。

【活動報告】

■ 8月5日(日)「持ち寄ったものをみよう」 参加者: 8名

この日も、各自が持ち寄った様々な植物を観察。

- ・ 4月、6月にみたカエデの葉の鋸歯や形状の特徴について、分かりやすいものとそうでないものの分けにくい点
- ・ 鋸歯と重鋸歯、全縁の復習
- ・ 那覇市内の帰化植物 (ヒゲシバ、シロセンダンガサ、ウスバニギナ) 、街路樹 (リュウキュウコナ))
- ・ ウキクサの根や葉状体 (葉にみえるもの) の観察となかまの識別点 など

この日は、実習室が使えなかったため、急きょ大人のディスカバ内で活動しました。

夏休み中だったこともあり、お子さんがマイクを使って質問してくれたり、ガラス越しに張り付くように見ていたり、少しでも植物や活動内容に興味を持ってもらえたかもしれないと思いました。大人の方は、メンバーがドアからフロアに出ていくと話しかけてくださることに気づきました。最初、ガラス張りの中で「はずかしい・・・」とつぶやいたメンバーも、植物を調べ始めるとそんなことはすぐ忘れ、いつものどおりの活動になっていました(´_`)v



■ 9月9日(日) 近江八幡へお出かけ「水草をみよう」 参加者: 10名 講師 芦谷先生

まず、近江八幡の宮ヶ浜で流れ着いた水草を観察。

芦谷先生は胴長を着て少し深いところで、2人のお子さんは水に入りながら浅いところで、その他の大人たちは濡れないように波から逃げながら浜で採集。コウガイモとネジレモの見分け方から始まり、コカナダモ、オオカナダモ、クロモ、イバラモ、ホザキノフサモ、トリゲモ、オオササエビモ、ササバモ、ヒロハノエビモなどをみました。その後、雄花が入っている部分が付いたネジレモ (右画像→)、ハゴロモモ (他と見比べるのに重要ー!) を水に入っていたお子さんたちが採集し、発見する目、気づく力に拍手喝采でした。大人たちも来年は水着を買い、湖に入る約束を・・・? 結局、台風の行き過ぎた後だったこともあり、水草は15種類ほどを観察できました。



昼食後、保護されている地域へ移動し、アサザ、ミズオオバコ、トチカガミをみました。農業と希少種の保護を両立させるという熱意ある取組や外来種の駆除についても聞くことができました。絶滅に向かう生き物たちが多く、人の手でどう守ることができるのかを模索することの大切さ、あきらめてはいけないことを改めて感じました。

【活動予定】

- 月に1回、第1日曜日の午後を予定しています。 遠出の場合は、これに限らず、変則的になります。

外部で行う観察会は、年に数回、はしかけの皆さんにも呼びかけを行っています。このニューズレターを見て、直接現地へお越しください。基本的には、危険が無く雨でも歩ける所で、大雨や警報が出ない限り「行う」方向でいます。

■ 10月7日(日) 「持ち寄ったものをみよう、湖岸の水草を拾って調べよう」

場所: 琵琶湖博物館 実習室1または2 または大人のディスカバ内

時間: 13:30~16:00

■ 11月 日にち未定 (相談後、日にちを決めます)

◎はしかけの方ならどなたでも参加可、23日~25日ごろの予定、今回はメールにてお問い合わせください

お出かけ観察会「博物館の周りをみよう」 講師: 布谷さん

場所: 琵琶湖博物館 集合は博物館ロビー

時間: 10:30~15:00 ごろ

この活動に興味のある方は、メール(上記メールアドレス)にてご連絡ください (´o`)/

当日、直接、実習室へ来ていただいても結構です。



(13) たんさいぼうの会

【活動報告日の活動会員数(のべ) 19 名】

グループ代表アドレス: hashi-keisou@biwahaku.jp

グループ担当職員 影の会長: 大塚泰介

【活動報告】

8月23日(木)、24日(金)に、琵琶湖博物館で「第35回 水処理生物基礎講座」が開催され、講師として影の会長と根来さんが、受講生として津田さん、三村さん、山本さんの3人が参加しました。湖沼や水道原水のプランクトンの検索・同定・計数・評価技術一般を幅広く学びました。この講座の中で、たんさいぼうの会に伝わる珪藻の分類ゲーム「珪藻マスター」が、約6年ぶりに復活しました。かつては各種イベントでたびたび行われ、小学生を含めて多数の「マスター」を輩出してきましたが、この日はいきなり最難関の「超珪藻マスター」の課題を出したせいか、講師陣を含め、時間内でのクリアはゼロに終わりました。

多賀町四手の蒲生層(前期更新統)から産出した化石珪藻の報告は、8月に無事投稿され、現在、査読結果を待っているところです。藤前干潟(名古屋市)の珪藻については、概ね初稿を書き上げましたが、量が膨大なこともあって、修正がなかなか進みません。他にも藤ヶ鳴湿原(岡山市)、瀬田公園(大津市)、愛知県の鈹質土壌湿地群などの珪藻の研究を進めています。

【活動予定】

9月24日(月祝)に、箱館山平池(高島市)へ「たんさいぼうの小さな旅」に行ってきます。このニューズレター原稿の〆切よりもわずかに後ということで、次号で報告いたします。

11月17日(土)、18日(日)に行われる「琵琶博フェスティバル」で、たんさいぼうの会は、琵琶湖の小さな生き物を観察する会とともに、マイクロアクアリウムを占拠します。いろいろな場所で採集してきた微小生物を持ち込んで観察してもらい、ふだんとは一味違った視点から解説します。珪藻の電子顕微鏡写真のパネルも出します。余力があれば「珪藻マスター」にチャレンジしてもらってもできるかもしれません。

たんさいぼうの会第58回総会を、2019年1月に開催します。1月14日(月祝)午後を軸に調整中です。

いずれも、参加ご希望の方は上記代表アドレスまでご一報ください。



(14) たんぼの生きもの調査グループ

【活動報告日の活動会員数(のべ) 8名】

グループ代表アドレス: hashi-tambo@biwahaku.jp

グループ担当職員: 鈴木隆仁

今年も、311本、のべ460種あまりという多数のサンプルが集まったため、夏休み恒例の同定会を2度にわたって開催しました。いつもの実習室が使用できなかったのも、おとなのディスカバリーにあるオープンラボでの開催。実習室から顕微鏡を持ち込んで、大の大人が一生懸命に何かをしている姿に、おとなのディスカバリーを見に来た子供たちは興味津々。室外のマイクを通してあれこれ質問してきます。でも、どちらかというと、子供たちが興味をもったのは私たちのやっていることではなく、私たちそのものかマイクの存在のようで、あまり説明を聞いてはくれません。せっかく同定の手を休めて説明している鈴木学芸技師や山川代表がお気の毒でした。

【活動報告】

■ 8月25日(土) 10:30~16:30 同定会(その2)

今シーズンに採集したエビ類について、同定作業を行いました。各自が採集したサンプルはそれぞれが同定を行い、余裕がある人は、多量にあるカブトエビ類を同定する作業の補助をしました。カブトエビ類の同定は、1個体ずつ尾部のトゲの生え方を確認する必要があり、時間がかかります。アルコール固定されたエビは丸まっていますから、トゲが見えるように伸ばすだけでも一苦労。とうとうこの日も完了とはいかず、あとは山川代表にお任せすることになりました。

11月の「びわ博フェス2018」についての簡単な打ち合わせも行いました。11月17日(土)にワークショップを実施する予定で、参加申込書を提出しました。

【活動予定】

「びわ博フェス2018」の準備・打ち合わせと、本年度の調査結果の検討のための集会を

9月23日(日) 10:30 - 14:30 実習室2

11月4日(日) 13:30 - 17:00 実習室1

に行く予定ですので、ご参加をお願いします。

(石井千津)



(15) タンポポ調査はしかけ

【活動報告日の活動会員数(のべ) 名】

グループ代表アドレス: hashi-tanpopo@biwahaku.jp

グループ担当職員: 芦谷美奈子

<2020年の調査が迫ってきました!>

「タンポポ調査はしかけ」は、「タンポポ調査・西日本 2015」というタンポポの参加型広域調査に協力しながらタンポポについて学ぶことを目的に作ったグループです。この「タンポポ調査・西日本」は、5年ごとに開催される広域の参加型調査で、2020年にも実施される予定です。2019年が予備調査、2020年が本調査です。

<引き続きメンバー募集中!>

次回の調査に向けて、そろそろ準備したいと考えています。開花期間が短いので、1年の活動は4カ月ほどになるかもしれませんが、興味のある方の参加を引き続きお待ちしております!

メーリングリストを、現在移行中です。メーリングリストに登録を希望される方は、上記アドレスまで連絡をください。こちらから改めて連絡をとらせていただきます。

<2015年の調査の結果を掲載したチラシ、報告書をご希望の方はお知らせください!>

「タンポポ調査・西日本 2015」の報告書および結果チラシをご希望の方は、上記アドレスあるいは芦谷まで直接お尋ねください。チラシを配布したいなどのご希望も、遠慮なくお知らせください。

【活動報告】

この2ヶ月は、特に活動はありませんでした。

【活動予定】

現時点で決まっている活動予定はありません。



(16) ちこあそ

【活動報告日の活動会員数(のべ) 4名】

グループ代表アドレス: hashi-chikoaso@biwahaku.jp

グループ担当職員: 中村久美子

台風、雨と続いている9月の貴重な晴れ間でした！

◆ 9月

イナズマロックフェスティバルの設営作業が行われる音が遠くで聞こえる生活実験工房でした。今回は参加者は4組。時間差での出席もあり、ゆったりとした時間が流れました。バンダナおじさんが残しておいてくださったミズカガミの稲刈りを体験する親子、ガチャコンポンプで水遊びをする親子、田んぼでカエルを追いかける親子、それぞれが好きなように過ごします。スタッフもそれぞれの親子と一緒に、おしゃべりしながら、子どもの発見や驚きを言葉にしながら、ゆったりと過ごします。

お昼は、バンダナおじさんが作ってくださったかき揚げや少し手間をかけてくださった炊きたてのご飯などを頂戴して、子どもと保護者が顔を見合せて「美味しいね」と、幸せな時間です。保護者の方に聞くと、普段家では食べない野菜やキノコも、ちこあそでみんなで食べるとパクパク食べるそうです。集団でやっているちこあその力ですかね。

お昼からも、ガチャコンポンプで遊びます。なんやかんやで、子どもは裸。様子を見てみると、水は冷たいようなんです。水遊びは楽しいという気持ちもあり、結局楽しさが勝って、水浸しになって遊んでいます。水は最高の遊び道具なんですね。

10月は第3水曜日の17日を予定しています。秋が少しずつ進むのでしょうか、それとも暑いのかな？移り変わる自然をお楽しみに。

WEBで、活動の様子や次回のチラシを掲載しています。

<http://blog.goo.ne.jp/eco-macha> をご覧ください。

【活動報告】

	実施日	タイトル	内容
9月	9月19日(水) 10:00-14:00	少し涼しくなり、森遊びが楽しいよ ちこあそ9月	ループでの自然観察、森の探検、工房の食体験など 参加者：メンバー3人、子ども5人、保護者4人、学生1名

【活動予定】

	実施日	タイトル	内容
10月	10月17日(水) 10:00-14:00	ちこあそ10月	※毎月おおそ第3水曜日に行います。 ループでの自然観察、森の探検、工房の食体験など やさしい自然遊びを子どもや保護者の方とゆっくり、ボチボチします。
11月	11月21日(水) 10:00-14:00	ちこあそ11月	※毎月おおそ第3水曜日に行います。 ループでの自然観察、森の探検、工房の食体験など やさしい自然遊びを子どもや保護者の方とゆっくり、ボチボチします。

新しいメンバーも飛び入りも大募集中です。一緒に子ども達と遊びましょう！

◆ 9月の様子



バンダナおじさんと台風で倒れたメタセコイアの年輪を数えました。博物館とだいたい同じ年齢でしたよ。



子どもはハサミでチョッキ、お母さんはカマでザクッと稲刈しました。「バンダナおじさん、どうぞ!」「はい、もらいます!」



ご飯の前に、手を洗おう。誰かが洗うと、みんなやってみたくなるものです。子どもはそうやって学ぶんですね。



(17) 琵琶湖の小さな生き物を観察する会

【活動報告日の活動会員数(のべ) 23名】

グループ代表アドレス: hashi-bck@biwahaku.jp

グループ担当職員: 大塚泰介

【活動報告】

■ 7月26日(土) 参加者: 10名

琵琶湖のプランクトン観察を行いました。今回はプランクトンネットを使って採集を行いました。この日はネズミワムシや藍藻が多く見られました。また、キノコ好きのメンバーはキノコの標本を持参して孢子の観察・撮影を行っていました。

■ 8月26日(日) 参加者: 9名

博物館周辺で採集・観察を行いました。今回はメンバーの集合時間がバラバラだったため各々琵琶湖や博物館前の水路などいろんな場所で採集しました。

■ 9月16日(日) 参加者: 4名

田上山にある池へ調査に出かけました。前日は雨の心配をしていたのですが幸い、雨はほとんど降りませんでした。道中、キノコがたくさん出てきており、キノコ好きのメンバーはカゴいっぱい採集していました。また、モウセンゴケやミミカキグサなど湿地の植物や生き物も観察しながら歩きました。

田上山の池は何か所かあるのですが今回調査した多くの池でバス、メダカ、フナなどが放されていました。魚の採集道具は持ってきていなかったのですが小学生のメンバーはピーカーだけで見事にメダカを捕獲していました。

現場で携帯顕微鏡で見ていた時にはあまりおもしろいプランクトンがいない印象だったのですが、持ち帰った池のサンプルを観察してみたところ、いろいろなおもしろい生き物が採集できていました。私は狙っていたワムシや初めて見るワムシがいたので大満足な1日でした。(渡辺)



マルサヤワムシの仲間
(*Floscularia conifera*)



ハナビワムシの仲間
(*Collotheca edentata*)



*Microcodon clavus*の咀嚼板



ミクラステリアスの仲間
(*Micrasterias foliacea*)

【活動予定】

次回開催日については未定です。

琵琶湖の小さな生き物を観察する会では月に1回、観察会を行っています。見学・参加希望の方はグループ代表アドレスまでお問い合わせください。



(18) びわたん

【活動報告日の活動会員数(のべ) 64 名】

グループ代表アドレス: hashi-biwatan@biwahaku.jp

グループ担当職員: 小林偉真・奥野知之

【活動報告】

■ 9月8日(土)「古代生物をうつし取ろう!」参加者: 64 名

今回のわくたんは、滋賀県立近代美術館(以後「近美」と)のコラボレーション企画でした。はじめに、博士のおんちゃんから古代生物についてのお話を聞きました。次に、近美のうっちーさんからプレス機を使わない「ドライポイント版画」の説明を聞き、下絵を描いてニードルで彫る作業をしました。下絵の古代生物は、想像で描いたりアンモナイトやビカリア、三葉虫などの古代生物の化石をスケッチしたりしました。版に彫る作業は小さい子どもには難しかったのか、親子で取り組む様子がありました。後半は、版にインクを詰めて石膏を流し込みました。石膏は、琵琶湖博物館体験学習プログラムの「化石レプリカづくり」で使用しているもので、水と石膏を混ぜ合わせて使用しました。版の周りに粘土で土手を作り、そこへ石膏を流し込み、固まるのを待ちました。固まった石膏から版を剥がすと、石膏に古代生物が写し取られていて、本物の化石のような作品ができました。内容が盛りだくさんでしたが、親子で協力しながら時間通りに活動ができ、みなさん大満足でした。

びわたん (こばやん)



【活動予定】

■ 10月13日(土)

「ドキ土器! おしゃれもようを楽しもう!」

■ 11月10日(土)

「秋の色探しをしよう!」



(19) ほねほねくらぶ

【活動報告日の活動会員数(のべ) 7 名】

グループ代表アドレス: hashi-hone-hone@biwahaku.jp

グループ担当職員: 松岡由子, 高橋啓一

【活動報告】

■ 7月29日(日) 参加者: 0 名

台風接近のため中止

■ 8月5日(日) 参加者: 2 名

カルガモの除肉、イタチの除肉を行いました。

■ 8月26日(日) 参加者: 4 名

フナ解剖、リスザル、ハクビシン、ルリビタキの骨のクリーニングを行いました。

■ 9月8日(日) 参加者名: 1 名

イノシシの骨のクリーニング、作業部屋の清掃作業を行いました。



▲ 右が今回制作したリスザルの頭骨、
左は以前に制作したニホンザルの頭骨です。

【活動予定】

10月は14日(日)と21日(日)に活動を予定しております。

11月の詳しい活動日は現在未定ですが、月に2回程度、土曜日・日曜日に活動を予定しております。



(20) 緑のくすり箱

【活動報告日の活動会員数(のべ) 12 名】

グループ代表アドレス: hashi-midori-k@biwahaku.jp

グループ担当職員: 大槻 達郎

【活動報告】

■ 8月22日(水) 場所: 琵琶湖博物館 生活実験工房 参加者: 12名

・ビワの葉療法

昨年好評だったビワの葉の活用法について、今年も交流しました。

午前中、メンバーが乾燥させて持参してくれたビワの葉で、入浴剤、ビワの葉エキス(チンキ)、お茶を作りました。ビワの葉の入浴剤は、乾燥させて細かくハサミでカットし、不織布などの袋に入れて、紐でしばり、完成です。今回はドクダミ、ヨモギも入れ、使うのが楽しい入浴剤になりました。そのままお風呂に入れてもよいし、あらかじめ煮だした汁をお風呂に入れてもよいのだそうです。

次に、ビワの葉のエキス作りを行いました。こちらもビワの葉を細かくカットし、煮沸消毒した瓶に詰め、ホワイトリカーなどアルコール度数が35°以上のお酒を注ぎます。しっかり蓋をして、1か月漬けると使用できるようになります。ビワの葉のエキスは、お風呂にも入れてもよいですし、精製水で薄めて、湿布や化粧水にできます。(昨年作ったビワの葉のエキスは、ミツロウクリームに入れました。) 出来上がりが楽しみです。



・桑の葉のお塩作り

メンバーが桑の葉を乾燥させて持ってきてくれたので、すり鉢で細かくして、茶こしで濾し、パウダー状にしたものを、焼き塩と合わせて、桑の葉の塩を作りました。すり鉢で細かくしている間、少し抹茶に似たようなよい香りで、楽しく作ることが出来ました。塩と桑の分量は、味見をしながらしていき、ちょうどよいところを見つけて作りました。家に帰って、ごはんにご混ぜしておにぎりを作ったら、子供たちも喜んで食べていました。



・こんにゃく湿布

午後から、ビワの葉を使ったこんにゃく湿布について交流しました。これも昨年行いましたが、メンバーに大変好評だったので、今年もやりたいと意見が出たイベントです。こんにゃくを熱くなるまで茹で、古びたタオルで3重に巻きます。肝臓や腎臓のある部位に、ビワの葉（葉の表を体に当てる）→タオルで巻いたこんにゃくの順に当てて温めます。他にも、膝や足の裏など、気持ちがいと感じる部分にも同じように当てます。しばらく当てていくと、こんにゃくが冷めていくので、タオルを1枚ずつ取っていきます。

今年の夏は暑かったですが、クーラーなどの影響で、体は結構冷えているのだなあと感じました。とても気持ちよく、終わった後は、ビワの葉で作ったお茶を飲んで、とてもリラックスできました。こんにゃく湿布のビワの葉は、少し濡らして新聞紙などに包み、冷蔵庫で保管しておくそうです。



☆参加したメンバーの感想☆

- ・体も心もポカポカになりました。
- ・とっても楽しく癒された一日でした。
- ・こんにゃく湿布を家族にも試しましたが、気持ちいいと大好評でした。
- ・初めてのこんにゃく湿布に感動しました。汗がじんわり出て、夏の疲れが取れました。
- ・ビワの葉湿布が気持ちよく、寝てしまいました。夏バテから食欲がなくなっていたのですが、夕食がおいしく食べられました。
- ・桑の塩がおいしかったです。

【活動予定】

- 9月27日（木）10：00 場所：生活実験工房 へちま化粧水作りと小豆マッサージ・ポスター作り
- 11月18日（日）時間未定 場所：生活実験工房 びわ博フェス 精油の蒸留体験



(21) 虫架け

【活動報告日の活動会員数(のべ) 20 名】

グループ代表アドレス: hashi-mushikake@biwahaku.jp

グループ担当職員: 八尋克郎

【活動報告】

■ 8月4日(土) 18時~22時 夜間採集 場所: 高島市 参加者: 11名

間採集の道具を組み立て、ライトを点けて、来る虫を観察しました。甲虫・蛾・ハチなどが観察できました。



活動の様子



樹液を吸う昆虫

■ 9月16日(日) 18時~22時 夜間採集 場所: 大津市 参加者: 9名

夜間採集の道具を組み立て、ライトを点けて、来る虫を観察しました。甲虫・蛾・羽アリなどが観察できました。



活動の様子



灯火に来たカワゲラ

【活動予定】

今後、1か月に1回程度の野外調査、2か月に1回程度の室内勉強会を予定しております。
野外調査は、滋賀県の分布調査を予定、夏季には夜間の灯火採集も予定しています。
2018年11月18日のびわくフェスのワークショップにも参加しますので是非おこし下さい。
ご興味をお持ちの方は、グループ代表アドレスまでご連絡ください。(文責: 梶田)



(22) 森人(もりひと)

【活動報告日の活動会員数(のべ) 9 名】

グループ代表アドレス: hashi-morihito@biwahaku.jp

グループ担当職員: 林竜馬

【活動報告】

■ 7月28日(土) 13:30~16:00 企画展示「化石林」の見学 場所: 琵琶湖博物館 参加者: (会員) 5名

(博物館職員) 林

内容: 林学芸員の解説を受けながら上記の展示を見学した。古琵琶湖の時代の化石林と縄文・弥生時代の埋没林の調査で産出した動植物の化石の展示がありそれを基に当時の植生と気候変動の解説があった。屋外展示の太古の森、縄文・弥生の森を作る際にはこれらの研究成果が基になっているので今後の森人活動に生かしていきたい。

■ 8月11日(土) 11:30~15:00 伊吹山の植生観察会 場所: 伊吹山 参加者: (会員) 4名

内容: 山頂下の駐車場に集合し西登山道で山頂に向かい中央登山道で駐車場に戻るコースで植物などを観察した。樹木では登山道より少し低いところにイタヤカエデや他のカエデ類(おそらく石灰岩地帯に多いオオイタヤメイゲツ)が遠望された。登山道の近くでは草本と見間違ふほど背の低いヤマアジサイ以外の樹木は少なく所々にマユミの古木、カンボク、サワフタギ類、ツルアジサイ、イブキシモツケなどが見られた。草本はまさに百花繚乱でアカソ、シモツケソウ、イワアカバナ、ソバナ、ツリガネニンジン、ルリトラノオ、キオン、ミヤマコアザミ、コオニユリ、カワラナデシコ、イブキフウロ、ハクサンフウロ、シシウドなどが咲きワレモコウ、サラシナショウマ、テンニンソウ、トリカブトも咲き始めて秋の気配が感じられた。見慣れない植物も多かったが山の日ということで「伊吹山もりびとの会」会員のガイドを受けることができありがたかった。暑さも忘れあつという間の3時間であった。



ルリトラノオ



イブキフウロ



イブキジャコウソウ

■ 8月25日(土) 屋外展示の観察会 中止

■ 9月15日(土) 13:30~16:00 台風21号の被害状況の確認と対策 場所: 生活実験工房 参加者: (会員) 4名

(博物館職員) 林

内容: 予定を変更して樹冠トレイル周りの樹木の被害状況の確認を行った。折れたり根返りした樹木はシイ、アラカシ、タブ、ナナミノキ、マルバヤナギなどで特にシイが多かった。場所的には琵琶湖に向かって丸子船の中央付近の左側の根返り多かった。この部分の樹木が全部なくなると樹冠トレイルとしては寂しいのでできる限り根返りした樹木は起こして支柱をつけるようにできないか検討を依頼する。また枯れ枝の除去およびシイなどの幼木に巻き付いているクズやキカラスウリを除去した。



【活動予定】

◎ 9月29日(土) 13:30~16:00	内容: 樹冠トレイルのオープンに合わせての準備作業	場所: 生活実験工房
◎ 10月13日(土) 13:30~16:00	内容: 樹冠トレイルのオープンに合わせての準備作業	場所: 生活実験工房
◎ 10月27日(土) 13:30~16:00	内容: 樹冠トレイルのオープンに合わせての準備作業	場所: 生活実験工房
◎ 11月3日(土) 13:30~16:00	内容: 樹冠トレイルでのガイドツアー	場所: 生活実験工房

- ★森が好きな人、植物や昆虫など生き物が好きな人、専門知識は不要です。はしかけ“森人”に参加しませんか
★参加を希望される方は 森人(もりひと) hashi-morihito@biwahaku.jp に連絡ください。

新

(23) 琵琶湖梁山泊

【活動報告日の活動会員数(のべ) 12名】

グループ代表アドレス: hashi-ryozanpaku@biwahaku.jp

グループ担当職員: 大槻達郎

梁山泊のメンバーは、研究グループや個人で博物館に来館し、学芸員に研究相談にのってもらうことで、研究を円滑に進めています。7~8月は中高生が夏休みであることから、メンバー全員で研究の話をすることにしました。

今回は梁山泊のメンバー以外にも、はしかけ・フィールドレポーターで活躍されている前田雅子さんと、57年ぶりに新種のナマズを記載した田畑学芸技師に研鑽会へ参加していただき、中高生の研究に有益な助言を頂きました。また、中高生をサポートするメンバーからもいろいろ助言をもらうことができ、中高生メンバーにとっては、有益な時間を過ごすことができたのではないかと思います。

【活動報告】

■ 8月20日(月)

場所: 午前中 研究交流室 参加者: 10名

梁山泊の活動趣旨について、もう一度大塚学芸員から話をしてもらいました。

その後、中高生メンバー同士で自己紹介を行いました。お互いに午前中の後半は研鑽会の準備をしました。

滋賀県立米原高等学校のメンバーにいろいろ助けてもらいました。

場所: 午後1:00~4:00 生活実験工房 参加者: 16名

・第1回研鑽会

今回は3組が研究発表を行った。もう1人この発表する予定だったメンバーがその日中国の学会に参加していたため、大塚学芸員が代わりにポスター・データの解説をしてくれました。

1. 姉川と芹川の珪藻化石・滋賀県立米原高等学校

姉川と芹川の珪藻化石を基に古環境の復元を目指した研究の途中経過報告でした。化石の中に、河川には見られない種類の珪藻が発見されたことが大きなトピックでした。詳細はここにはかけませんが、今後の分析が楽しみです。

2. 「プラナリアの不思議」・帝塚山中学校

これまで行ってきたプラナリアの食性についての研究をさらに進めたものでした。プラナリアの飼育資料には使用しないものを食べさせた時の様子をしっかりとレポートしており、今後の研究について有益な助言をもらえたと思います。飼育方法について、サポーターからも質問がでて、終始和やかな発表となりました。

3. 「田んぼのプランクトンの季節変化」・海城高等学校

東京から博物館に来て発表してくれたが、時系列に沿った細かい生態環境データを取得しており、季節変動について、多角的な視点で議論することができました。大塚学芸員や前田雅子さんから様々なコメントをもらうことができたので、今後の研究に役立ててくれたら良いと思います。



研究発表の様子

今後は研鑽会だけでなく、研究を進めるために必要な勉強会も開催します。

文責: 大槻

【活動予定】

10月 第1回勉強会

【活動報告】

■ 9月2日(日) 13:30~16:30 水槽実験

場所: 琵琶湖博物館 実習室1 参加者: 8名 (はしかけ6名 学芸員1名 見学者1名)

琵琶湖の季節変化による鉛直循環 (いわゆる「琵琶湖の深呼吸」) の本質的部分を再現する水槽実験を行いました。

【活動予定】

■ 10月後半の土曜日または日曜日 (調整中)

2013年2月2日の新琵琶湖学セミナーで扱った「琵琶湖環流の研究史」の内容を題材に、湖水の流れを物理学的に考察する要領の勉強会を行います。



3. 生活実験工房からのお知らせ

生活実験工房の田んぼは、早生品種「みずかがみ」の収穫が済みました。先日の台風 21 号でも稲は倒伏せず、今年は中干しを長期に行ったことが奏功して根が比較的強く育ったものと考えています。10 月は晩稲品種「滋賀羽二重もち」の稲刈りですので、皆様のご参加をお待ちしております。

担当職員：下松 孝秀

【活動予定】

開催時間 10:00～12:00 場所：全日程とも生活実験工房

10 月 7 日（日） 稲刈り、はさ掛け（晩稲品種：滋賀羽二重もち）

12 月 2 日（日） 収穫祭

12 月 23 日（日） しめ縄づくり

※一般参加者の受付は、9:30 からです。

稲刈りは、各自、長靴・着替え等をご用意ください。

4. その他の事項

（1）メールアドレスとホームページアドレスの変更について

びわ博の情報システム変更にともなって、メールアドレスとホームページの URL が変更になりました。

新しいメールアドレスは「***@biwahaku.jp」、ホームページは「<http://www.biwahaku.jp/>」です。

なにか不備がありましたら、事務局までお問い合わせください。

（2）はしかけグループの活動に初めて参加する場合

ニューズレター発行後、活動日・活動場所が変更になる場合があります。グループの活動に初めて参加する時は、事前に各はしかけグループの担当者に確認をお願いします。メールの場合は、グループ代表アドレス（各グループの報告欄に掲載）にご連絡ください。

（3）名札（会員証）の写真について

名札（会員証）の写真を更新されたい方は、はしかけ制度担当者 hashi-adm@biwahaku.jp まで送って下さい。

ただし、必ず本人確認ができるものに限りです。

（4）はしかけ会員証の携帯のお願い

はしかけ活動で来館する場合は、会員証を必ず持参してください。会員証を携帯せずに活動することは、原則的にできません。

（5）はしかけ活動中に事故が起きたら

はしかけ会員は、ボランティア保険に加入する必要があります。加入時に、ボランティア保険加入カードが各自に配布されますので、活動中に事故などが発生した場合には、加入者カードに書いてある連絡先（社会福祉法人 滋賀県社会福祉協議会 TEL: 077-567-3920 FAX: 077-567-3923）へ、速やかに連絡してください（各人で連絡）。

なお、手続きには、グループ担当者（学芸員）の活動証明が必要ですから連絡してください。

詳しくは、最新年度の「ボランティア保険」パンフレットをご覧ください。「ボランティア保険」のパンフレットは、はしかけ事務局（博物館事務学芸室）にも置いています。